

アーカイブズ関係機関協議会参加機関・団体の紹介

## 社団法人日本画像情報マネジメント協会のご紹介

高橋 通彦

(社)日本画像情報マネジメント協会

### 1. 社団法人日本画像情報マネジメント協会 (略称 JIIMA) の成り立ちと変遷

文書情報マネジメント分野 / 業界における日本唯一の公認団体

JIIMA の設立

1958年：日本マイクロ写真協 (略称：JMA) として設立

1962年：社団法人として認可 (現：経済産業省)

1995年：社団法人日本画像情報マネジメント協会 (略称：JIIMA) に改称

2010年：創立52年

会員数：約200社

文書情報マネジメント関連システムの利用者と業とする法人又は個人

JIIMA は戦後の混乱が一段落して、産業復興の機運の芽生とともに産業界が動き始め、文書の管理方法としてマイクロ写真の用途と価値が根付き始めた1958年、マイクロ写真協会 (JMA) として設立、4年後に当時の通商産業省認可団体の社団法人として発足した。

JMA はマイクロ写真の普及啓発の事業の一環として、数々の協会規格を制定し、同時に日本工業規格として制定に努力し、法的に認められる文書としての地位を獲得する基礎を築き、マイクロ写真の普及に努めた。

また、1967年には、マイクロ写真士の資格制度を創設し、専門的知識と技術を習得した多くのマイクロ写真士を誕生せしめ、マイクロ化のプロフェッショナルとして活躍させた。その後、

マイクロシステムは1970年代の保存マイクロから活用マイクロへ進展し、CAR システムやCOM システムを誕生させ、官公庁から民間の製造業・金融・流通等の全産業に広がった。

1980年代になると、技術の発達は多くの新しい記録メディアを生むとともに、それらを利用したスタンドアローン型の電子ファイルが普及し、オフィスの文書ファイルとして利用された。

1990年代に入り、技術の進歩はさらに格段の進歩を遂げ、コンピュータの小型・高速・低価格化と通信の発達による相互通信・インターネットの発達は、ネットワーク型の文書情報マネジメントシステムの普及が始まり、活用型マイクロシステムを吸収発展して行った。

1995年、このような技術の変化に対応し、協会の名称を社団法人日本画像情報マネジメント協会に改称し、普及の目的をマイクロメディアのみでなく、磁気記録メディア等を含めた利用の“文書マネジメントシステムの普及啓発”に変更した。

2000年代になると、技術の進歩や社会の変化はさらに新しいシステムや利用の発展を生みだしてきた。1つは、デジタル・マイクロ・アーカイブで、デジタルの活用性の良さと、マイクロの保存性の良さをハイブリッドで利用しようとするもので、利用が拡大するデジタルデータの長期保存対策として注目されている。

さらに大きな変化として、内部統制時代では、組織の部門を越えた「非構造化データ」である文書情報の情報共有を行い、ERP などの基幹

システムの構造化データとの連携を実現する統合的な文書情報マネジメントと新たな技術領域が必要となってきた。

JIIMA では、ビジョン2008の活動方針の検討のなかで、今後の活動の目的を“統合文書情報マネジメント (ECM)”の普及啓発とし、対応していくことにした。

## 2. 活動の骨子

### 1) 普及啓発活動

機関誌「月刊 IM」の編集発行

国内外の事例紹介、最新技術、市場動向等、創刊以来48年間にわたり、1号の欠刊もなく継続している。

統合文書情報マネジメント (ECM) に関する各種セミナーの開催

東京・大阪の定例の JIIMA セミナーを始め、名古屋・福岡・札幌等地域セミナー、e - 文書法等のトピックスセミナー等を開催。

e ドキュメント JAPAN の開催

国内唯一の文書情報マネジメントの展示会・カンファレンスで最新のシステム展示と事例・技術・法制度等の最新の技術動向、社会動向の講演が3日間にわたり開催される。

米国 AIIM、韓国 DCA と連携して ECM の普及活動

両国の協会とパートナーシップ契約を結び、普及活動を行っている。

### 2) 文書情報マネジメントの標準化

JIS (日本工業標準規格) 原案作成

ISO/TC171 関係の国際標準規格審議

JIS 分科会、ISO 分科会、特定テーマプロジェ

クトの3分科会を作り、今年度は画像圧縮ガイドライン、ブルーレイを含めた電子データの長期保存、PDF 関連規格の検討、スキャナ評価用テストチャート、認証を伴う記録管理規格を検討している。

### 3) 文書情報管理士検定試験の実施と新資格制度の検討

毎年8月に上級・1級・2級の検定試験を7都市で、2月に1級・2級の試験を東京、大阪で実施し、文書情報マネジメントのプロフェッショナルを育成している。また、ユーザーに照準を合わせた新資格制度を検討している。

### 4) 文書情報マネジメントに関する法整備、規制緩和、実施基準への協力

e - 文書法成案時の要件検討や実施後の問題提起と国税見解のとりまとめと普及に現場の声を反映させながら協力している。

### 5) 政策提言

統合文書情報マネジメント (ECM) の抜本的普及を目指し、理事長直轄の政策提言会議を設け、民間・官公庁・官民共通の3部門の対策案を検討・提言している。

## 3. JIIMA の組織と委員会活動

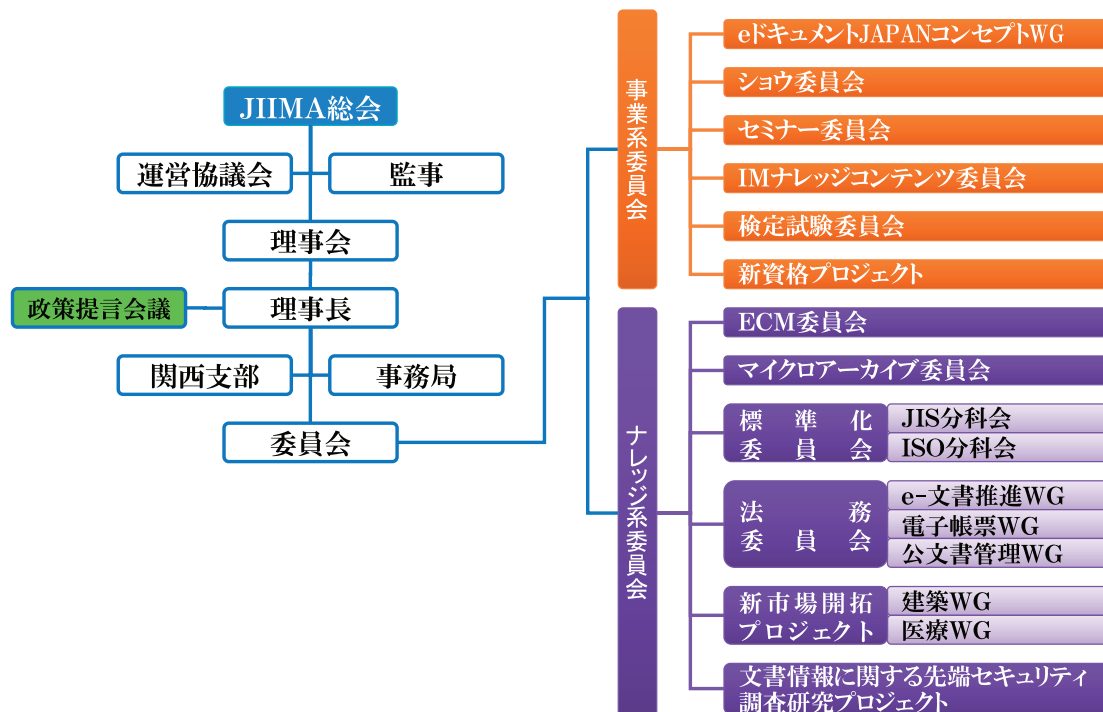
総会・理事会・理事長のもと、委員会が設けられ、登録の委員がボランティアで活動している。

委員会は主に JIIMA の事業を考える事業系委員会6とナレッジを高めるナレッジ系委員会6、政策提言会議1から成り、180回/年を超える委員会が開催され、活動している。

# JIIMAの活動

## JIIMAの組織・委員会制度

JIIMA Communication Plaza  
社団法人 日本画像情報マネジメント協会



高橋通彦 (たかはし みちひこ)

昭和37年千葉大学工学部卒業後(株)富士写真フィルム入社。情報システム部東京販売部長を最後に平成6年(株)フジカラーサービスに移籍、デジタル事業を立ち上げ、常務取締役デジタル本部長で退任、平成13年(株)ジェイ・アイ・エムに入社、平成17年副会長にて退任、顧問で現在に至る。

この間平成7年から11年 JIIMA 理事、平成15年理事長就任。現在に至る。

